

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：31303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25380252

研究課題名(和文) 安井琢磨の思想・方法・理論 - 埼玉大学所蔵安井琢磨文庫のデータベース化とその解釈

研究課題名(英文) Takuma Yasui's Economic Thought, Methodology and Theory: Compilation of a Database and Interpretations on Yasui Papers, owned by Saitama University

研究代表者

金井 辰郎 (Kanai, Tatsuro)

東北工業大学・ライフデザイン学部・教授

研究者番号：90332022

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、奥山ら(1999-2000)および貝山ら(2001-2002)の科研費研究への接続を意識し、「安井文庫」の全体像解明をめざした。安井による自筆研究ノート(32点)を含む「安井文庫」の重要部分をPDF化した上で、自筆研究ノートの検討(テキスト化による検索可能化、読書ノート部分のタイトルリスト作成、いくつかの草稿の検討)を行った。特にこれまで検討が不十分であった自筆研究ノートの全体を網羅できたことには意義があると考えられる。ただし、そのうち、部分的に含まれていた草稿や思考メモについては、それらが断片的であることもあり、期間内では一部の検討にとどまった。未検討部分の考察は、今後も継続したい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to compensate the former researches of Okuyama et. al.(1999-2000) and Kaiyama et. al.(2001-2002), which are concerned with "Yasui Papers" owned by Saitama University. We digitized the whole part of Yasui's autograph manuscript in a PDF format, and listed all the titles which Yasui mentioned or transcribed in his autograph notes. Moreover, we found some unpublished manuscripts in the archive, and noted and discussed them. We regard it as valuable to elucidate all the part of autograph notes by Yasui. However, we shall continue this research particularly on fragmentary manuscripts, which are hard to understand.

研究分野：経済学説・経済思想

キーワード：安井琢磨 安井文庫 一般均衡理論

1. 研究開始当初の背景

日本における一般均衡理論研究のパイオニアとして知られる安井琢磨(1909-1995)の遺稿が埼玉大学経済学部「安井文庫」(以下、「文庫」と呼ぶ)に収められている。安井は、戦前から戦後までの長きにわたり国際的な水準で活躍した、数少ない日本人経済学者の一人である。特にその初期においては、ほぼ孤立したなか一般均衡理論研究に向かい、いくつかの点で重要な貢献をなした。まさに安井の「学問の歴史はすなわち一般均衡理論の発展の歴史」(根岸 1972, 19)だったのであり、安井の経済学の形成過程を考えることは、一般均衡理論の形成史を明らかにすることにもつながる。

かれは当時の日本における典型的な経済学者と違い、徹底した理論技術者であったが、同時に日本の経済「学」の現状に関する多くの論文、対談・座談会記録を残した。マルクス経済学が主流であった時代に一般均衡理論の研究を始め、戦中の皇国経済学、政治経済学の流行のなかにあってもその信念を曲げず、時に迫害さえ受けた安井にとって、一連の日本経済学批判の発言を残したことは、理論論文を書くことと同様、自身のヴィジョンを学界に浸透させるもう一つの方法であったのかもしれない。1970年代ころを境に、安井は科学哲学や学説史に接近し、また社会経済学の可能性にも言及するようになる。それはその後、まとまりある理論体系にまでは高められなかったが、安井が一般均衡理論を越えた、イデオロギー志向的な社会科学としての経済学に(成功しなかったが)接近していたことは事実である(Kanai 2010)。

「文庫」は、安井没後の1999年、遺族からの寄贈により同大に開設されたもので、2,241冊の和洋蔵書、655点の遺稿、80点の著書・原稿類に書類・メモ等を加えた総計3,243点の資料からなる。特に、その中に含まれる32冊(当初29冊、のちに3冊追加寄贈)の自筆研究ノートは、安井の経済学の形成過程を明らかにするために非常に貴重な資料であるといえる。

奥山らの研究(1999~2000年度基盤研究(C))および貝山らの研究(2001~2002年度基盤研究(C))は、「文庫」を所蔵する大学の関係者として、「文庫」に含まれる膨大な資料の整理を行い、「文庫」内の資料構造の解明と重要資料のマイクロ化を行った。柳澤(2003)は、「文庫」中に含まれる、シュンペーターから木村健康・安井琢磨に宛てた書簡を発掘し紹介した。柳澤の研究(2006年度埼玉大学総合研究機構研究プロジェクト)は奥山・貝山らの研究を引き継ぎ、全32冊のノートのうち特にノート15の内容を精査した。Kanai(2009)は「文庫」に含まれる、安井による未公開の英文草稿をreproduceした。同稿は日付がないが、1972/1973年ころの執筆と推測される自筆草稿で、(稿中の安井の言葉を借りれば) "A

Short History of Walras-Studies in Japan" とでも題すべきものである。1910年代から1960年代までの日本における一般均衡理論研究の発展が扱われ、安井が孤独の中で一般均衡理論に向かい、後にその目論見が現実化していく過程が描き出されている。Kanai(2010)は、主に既刊論文の範囲で、安井の経済学に関するヴィジョンを論じた。安井は経済理論が価値自由でopen-endedでなければならないとの信念のもと、その基準に適合しないマルクス経済学、「解説的な」経済学、国家主義的な経済学を拒否した。理論の検証に当たっては素朴なポパー的反証主義に立つが、理論の現実社会への応用に際しては「もっともらしさ」という後退した条件を適用している。安井は、いわば<条件付きの反証主義>に基づき、矛盾する態度を取っているといえる。

また、われわれの研究以外の先行研究としては、松浦([1972] 1973)、Tsuru(1984)、都留([1985]2006)、Weintraub(1987)、Weintraub(1991)、Ikeo(1994a)、池尾(1994b)が、主に経済学への数学の導入に関する安井の功績を扱っている。理論家による、安井理論のauthoritativeな評価としては、根岸(1972)、Negishi(1996)がある。池尾(2006)は、安井に限らず、広く日本の経済学(者)の国際化と数理化のプロセスを描き出したものであるが、安井に関しては「文庫」中の資料も参照している。小峯(2009)は、「文庫」を参照しながら、L.ロビンズの所説の日本への紹介に果たした安井の役割を論じている。これらの研究が示す安井像は、もちろんそれぞれに説得的であるが、「文庫」の全資料を参照してはいないという意味で、資料的な制約を受けている。本研究が未公開資料を扱う中で、これらの先行研究も再検討されるべきであると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、これまでの奥山ら(1999-2000)と貝山ら(2001-2002)の科研費研究への接続を意識しながら、自筆研究ノートを含む遺稿のデータベース化を通じて、「文庫」の全体像に迫ることを目標とした。金井(研究代表者)、奥山(研究分担者)、柳澤(研究分担者)、渡辺(連携研究者)は、それぞれすでに過去において、「文庫」に関する研究に従事し、安井の著作および「文庫」の内容について、ある程度の理解に到達していた。本研究では、それらの研究を土台とし、さらに完成度の高い「文庫」の理解を目指した。

3. 研究の方法

研究目的に照らして有意味な未公開資料を「文庫」中に探し求めながら、かつ既刊の文献も対象に考察を行った。特に自筆研究ノートについては、のちの研究に役立てる目的で、マイクロフィルムから画像データ化・

PDF 化し、かつテキスト化することにより、テキスト検索可能なデータベースを作成した(Kanai, Okuyama and Yanagisawa 2016, 金井 2017)。また、自筆研究ノートの大部分を占める読書ノート部分については、安井が書き出している論文、書籍の全書誌情報リストを作成し、ディスカッションペーパーとしてまとめた(Kanai 2014a~2016)。また、それらリストの特徴について、年代、雑誌名、著者名、ノートごとの傾向などの観点で検討し(金井 2017b)、自筆研究ノートに含まれていた未公開草稿を再録、注記した(金井 2017a)。また安井の安定条件論が、ノート 20, 21, 22 に基づいていることを検討した。

4. 研究成果

それぞれの自筆研究ノートの年代を完全に確定することはできないが、ほぼノート番号の数字が上がるにつれて、新しい年代のものであることが推測できる。初期のものにおいては、ドイツ語文献やワルラス、シュンペーターの理論文献に関するものが多いが、新しい年代のノートは、次第に方法論や社会経済学に関する文献が多くなる。また、文献名のみの記事も多くなるが、それはコピー機の普及などの事情と無関係ではないかもしれない。

安井が情熱を注いだ一般均衡理論は 1930 年代に研究プログラムが開始され、1950~60 年代に均衡解の存在証明や安定性の分析で隆盛を誇ったが、1970 年代になると現実経済分析への適用可能性などの面で限界が認識されるようになった。このような一般均衡理論の研究史を、安井の自筆研究ノートはまさにその内部から照らし出しているといえる。安井は初期において、シュンペーターを手掛かりにワルラスを徹底的に読み込み、粗削りながらワルラスの改鑄を試みた。中期になると、*Economica*, *Econometrica* などに見られる一般均衡理論に関する多くの論文を消化し洗練することに努めた。そして後期にあつては、一般均衡理論では解明できない現象の解決策を求め、非マルクスの社会経済分析や科学哲学に興味を持つようになった。

結局、安井は 1970 年代以降、一般均衡理論の内部から、あるいは一般均衡理論に対する代替理論により、その行き詰まりを克服するまでには至らなかった。しかし、そうではあっても安井をそのように見限ることは正当でないだろう。1930 年代、まだ一般均衡理論が全く地歩を固めていない段階で、特に第二次大戦を挟んで欧米と全く交流のない中、また国内的には皇国経済学や日本経済学といった fanatic な経済学が幅を利かせた時代にあつて、孤高に、独力で一般均衡理論の開拓に向かったことこそ、安井の偉大さであった。自筆研究ノートを含む「文庫」中の資料は、そのような一般均衡理論の開拓者としての安井の姿を vivid に表現しており、われ

われはそこに、安井の経済学者としての意地や信念のようなものさえ感じる。自ら後に述べている通り(安井 1994, 4-5)、安井は確かにこの一般均衡理論という分野を<開拓>したのであり、もちろんそれは何かの「手直し」や「解説」などではなかったのである。

本研究では、これまでの奥山ら(1999-2000)と貝山ら(2001-2002)の科研費研究への接続を意識しながら、「文庫」の重要部分を画像データ化・PDF 化し、可視化した上で、自筆研究ノートの解明(テキスト化による検索可能化、読書ノート部分のタイトルリスト作成、いくつかの草稿の検討)を行った。これらは、「文庫」の全体像を描き出すことを目指したもので、その目的はある程度達することができたと考える。特にこれまで検討が不十分であった自筆研究ノートの全体を網羅できたことには意義があると思う。自筆研究ノートの大部分は読書ノートであったが、部分的に草稿や思考メモを含む。草稿や思考メモの評価は、それらが断片的であることもあり、研究期間内では一部の検討にとどまった。未検討部分の考察は今後継続し、近い将来、完成を期したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

Kanai, T. 2014a. Takuma Yasui's Research Notes in "Yasui Papers": the Digest Part (I), *Discussion Paper Series*, Tohoku Institute of Technology, 3.

Kanai, T. 2014b. Takuma Yasui's Research Notes in "Yasui Papers": Autograph Digest Part (I), *Shakai Kagaku Ronshū*, 143: 197-210.

Kanai, T. 2015a. Takuma Yasui's Research Notes in "Yasui Papers": Autograph Digest Part (II), *Discussion Paper Series*, Tohoku Institute of Technology, 4.

Kanai, T. 2015b. Takuma Yasui's Research Notes in "Yasui Papers": Autograph Digest Part (III), *Discussion Paper Series*, Tohoku Institute of Technology, 5.

Kanai, T. 2016. Takuma Yasui's Research Notes in "Yasui Papers": Autograph Digest Part (IV), *Discussion Paper Series*, Tohoku Institute of Technology, 6.

金井辰郎 2017a. 安井琢磨によると思われる「戦争経済学」に関するノート, *Discussion Paper Series*, Tohoku Institute of Technology, 10.

金井辰郎 2017b. 安井琢磨<読書ノート>の構造: 埼玉大学所蔵「安井文庫」所収の資料より, *Discussion Paper Series*, Tohoku Institute of Technology, 11.

[学会発表](計 3 件)

Kanai, T. 2014. Takuma Yasui's Research

Notes in "Yasui Papers": the Digest Part (I), 経済思想研究会 (於東北大学), 2014年2月9日.

Kanai, T. 2015. Takuma Yasui's Research Notes in "Yasui Papers": Autograph Digest Part of Notes XV-XXIV, 経済思想研究会 (於東北大学), 2015年2月7日.

金井辰郎・奥山忠信・柳澤哲哉 2017. 埼玉大学所蔵安井文庫について: 自筆ノートに焦点を当てて, 仙台経済学研究会 (於東北大学), 2017年8月19日.

〔その他〕

Kanai, T., T. Okuyama, and T. Yanagisawa 2016. [Database] *Takuma Yasui's Library, Papers and Correspondence (Yasui Papers), owned by Saitama University*, DVD.

金井辰郎 2017. 「安井文庫」所収自筆研究ノートテキスト, DVD.

金井辰郎・奥山忠信・柳澤哲哉 2018. 『安井琢磨の思想・方法・理論 埼玉大学所蔵「安井琢磨文庫」のデータベース化とその解釈』, 科学研究費補助金報告書.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金井 辰郎 (KANAI, Tatsuro)
東北工業大学・ライフデザイン学部・教授
研究者番号: 90332022

(2) 研究分担者

奥山 忠信 (OKUYAMA, Tadanobu)
埼玉学園大学・経済経営学部・教授
研究者番号: 40185559

柳澤哲哉 (YANAGISAWA, Tetsuya)
埼玉大学大学院・人文社会科学研究科・教授
研究者番号: 90239806

(3) 連携研究者

渡辺志津子 (WATANABE, Shizuko)
埼玉大学・経済学部・助手
研究者番号: 10292640